

坂さんぽ⑭

いっそくざか 「一足坂」



現在の一足坂の様子
草や倒木で道とわかりにくくなっている

「水源地」の名で知られる川内ダムは、柏崎の3つの水道専用ダムのうち一番古く、昭和13年に竣工した。白雲滝周辺がダムの適地として造成されたが、「一足坂」はこの白雲滝の近くにある。水源地として造成される前の白雲滝周辺は、昭和初期に発行された「海の鯨波案内」で御野立公園や福浦八景と並んで紹介される、鯨波地域の観光地であった。（白雲滝の詳細は、ソフィアだより121～122号に掲載）

白雲滝も「一足坂」も字名「^{またにくち}無谷口」地内にあり、川近くの山道を進んだところにある急坂が一足坂である。

「一足」には、一度の足の動きや少しの移動の意があり、否定表現を伴う時に使用されることがある。一足坂は、けわしい岩山道のため、昔は薪炭運搬には馬を使う

以外になかったという。坂があまりにけわしく、少しずつしか進めないのも、一足坂と名付けられたと考えられる。

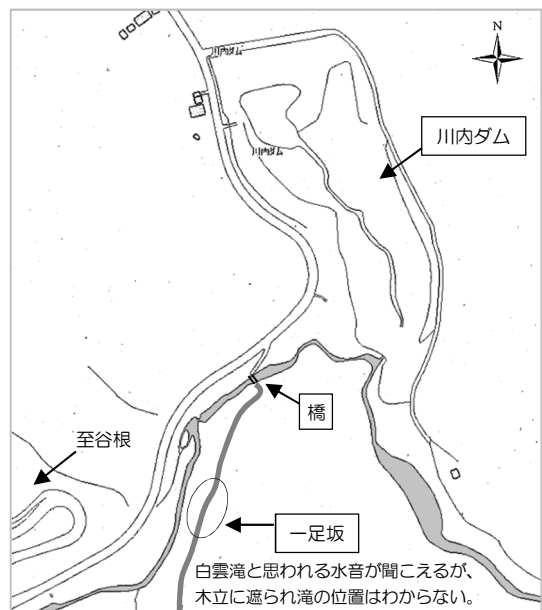
近世には、馬の安全祈願・死馬の供養のため国内で馬頭観音像や石塔が盛んに造られたという。一足坂でも馬の転落事故があり、供養のため馬頭観音が建てられた。この像に「天保五年十月」と刻まれていることから、「柏崎市伝説集」ではこの事故が起きたのは天保五年（1834年）の事ではないかと推測している。百数十年、一足坂の往来を見守ってきたこの馬頭観音は、昭和40年代中頃に苔を洗い清めた上で移され、今は鯨波郵便局の庭にJR信越本線を見守るように安置されている。



馬頭観音像
光背の右に「天保五年十月」と見える

●参考にした本

- 『ふるさと鯨波』鯨波地区郷土史編纂委員会編（224 クシ）
- 『柏崎市伝説集』柏崎市教育委員会編（388 Kキヨ）
- 『新潟県刈羽郡鯨波村是』鯨波村編（224 クシ）
- 『柏崎の水道』柏崎刈羽郷土史研究会編（518 Kカス）



一足坂周辺地図（柏崎市GISベースマップより）